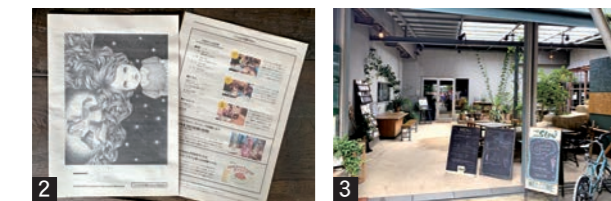


遠野に移住し起業を目指す皆さんを紹介 Vol.17  
**遠野で起業に挑戦中!**

平成28年から市と(株)ネクスト commons が手がける「ローカルベンチャー事業」。遠野に移り住んだ10数人の起業・事業化に向けた活動の様子やイベント情報などをお伝えします。



1\_ 白球を追いかける青春時代を過ごした宮本隊員 2\_ 毎月発行される広報誌「つくる大学通信」。誌面のデザインを担当しています 3\_ 着任当初は、東京都や県内の飲食店、施設を回る視察研修を実施。遠野市での拠点運営に向けた研究を行っています

**新たな隊員が仲間入りしました!**  
 本年7月から新たに着任したのは、奥州市出身の宮本拓海隊員。本号では、宮本隊員を紹介します。

**Q 遠野に来る前はどんなことをしていましたか?**  
 高校卒業後、岩手県内で行政職として勤務しました。その後、徳島県神山へ移住。宿泊施設の運営に携わっていました。

一昨年、地元の奥州市に戻り、ウェブや広告の制作会社に所属。記事執筆

や編集業務を行っていました。  
**Q 遠野に来てからどんな活動をしていますか?**  
 一日市商店街にある「Commons Space ( commons スペース )」の運営に携わっています。また、市内外に向けた広告物の作成やイベント企画なども担当しています。

**Q 今後の目標や取り組みたいことを教えてください。**  
 遠野は、昔からとても魅力的に感じていた地域。まずは市内のお店やイベントなどに訪れて、地域のことを深く知りたいです。

遠野文化研究センターだより とおのじん ー其の16ー

# 遠野人

★筆者 くまがい わたる 熊谷 航

遠野文化研究センター主任。1980年、一関市藤沢町生まれ。遠野に移住し10年。市広報を担当後、遠野文化研究センターに異動。以後、遠野の文化発信に努める。



遠野文化研究センターの活動に興味を持っていただけるような情報をお届けしています。今月は、遠野のお盆行事についてです。

お盆に帰省し、お墓詣りに行った。掃除をしようと墓石の上から水をかけたところで小学生の姪に、上からかけたら駄目、と注意をされた。下からかけて、最終的に上にかけるのだと言う。私は聞いたことがなかったので尋ねてみると、とあるテレビで見たいらしい。おそらくどこかの風習なのだろう。



設置されたムカイトロゲ

お盆の風習は地域性がいろいろあるので面白い。遠野ではその年に家族が亡くなれば、仏様が初盆に帰ってくる時の目印となる「ムカイトロゲ」(灯籠竿)を立てる。そのムカイトロゲに付ける布は男性が白、女性が赤、と決まっているものと思っていたが、どうやら性別問わずどちらも白とか赤というところもあるらしい。110年前に遠野を訪れた柳田國男も「～紅白の旗を高く掲げて魂を招く風あり」と『遠野物語』の序文に書き記している。

ムカイトロゲのほかにも、遠野ではさまざまな盆行事が行われる。小友町で行われている「新精霊」は、8月14日に初盆の寺、墓、家で地域の人が集まり太鼓をたたきながら念仏を唱える風習である。徳昌寺、光岸寺、智恩寺などで行われる「舟っこ流し」は、舟に火を付けて川に流すことで、仏様を送り出す意味合いを持つ。宮守町の達曽部地区での「湧水念仏」は、念仏衆と呼ばれる地区民が、寺や墓前で太鼓と笛、鐘、手平鉦を奏でて死者を供養する。地域性がある興味は尽きない。ちなみに、これらの盆行事は私の故郷には現在確認できない。あったのかもしれないが、もう伝わっていないのかもしれない。

「お盆」とはそもそもどういう行事なのか。かなり簡単に言うと、先祖や死者の霊を家に迎えて供養する年

中行事である。新暦か旧暦で7～8月に行われ、遠野では、地域によって異なるが、大体8月13～16日に行われる。仏様をお迎えするときに焚くのが「迎え火」というもので、遠野では「新精霊」や「まつ火焚き」がそれに当たる。仏様は、盆期間中に各家に特別に設置される「盆棚」に迎えらる。そして「送り火」で、仏様は戻って行く。先ほど紹介した「舟っこ流し」が「送り火」にあたる。盆踊りもその名のお盆行事で、先祖や死者を供養する意味合いを持つ。遠野では「遠野まぬけ節」がそれにあたり、有名な徳島の阿波踊りも盆踊りの一つである。

人びとの暮らしは移ろい行くものであるし、変えないように強要することもできない。ただ、テレビで見た内容を真似る際にはよく考えていただきたい。遠野で先祖代々続けられてきたことが失われ、日本全国どこも同じになってしまい、地域性が失われる危険をはらんでいる。遠野にはまだ、たくさんの風習が残っている。お盆は家族が集まるせつかくの機会である。来年は、テレビよりも身近な古老の話に耳を傾けてみてはどうだろうか。



遠野まぬけ節

★講座のお知らせ

遠野文化研究センター講座  
**女性は誰でも民俗学者! ? 「遠野のヨメ日記」から**

遠野の女性と暮らしの民俗を、イラストを交えながら分かりやすく紹介します。博物館の解説見学もあります。

- ◆日時 9月14日(土)10時～12時
- ◆場所 遠野市立図書館視聴覚ホール
- ◆講師 遠野文化研究センター 前川 さおり
- ◆申込 開催日の前日までに電話にて受付



★問い合わせ: 遠野市東館町3-9(遠野市立博物館内)/TEL:60-2800/FAX:62-5758/MAIL:tono100@city.tono.iwate.jp

まなぶ **伊香学のチャタナーガNOW! Vol.16**

米国チャタナーガ市との交流を、派遣職員・伊香がお伝えします!

庁舎内でミニコンサート

夏のミニコンサートシリーズは6月から月に1度、チャタナーガ市役所で開催されました。同シリーズは、音楽を通して市民にさまざまな文化に触れてもらおうと市多文化室が主催。8月13日、本年最後のコンサートのゲストは、ラキユア真萩さんとエルサー明子さん。三線や三味線演奏を披露し

て日本の文化を届けました。2人は、同市から約160km北東に位置する米国ノックスビル市に住む日本出身者。チャタナーガ市近郊には約100人の日本人が住んでいるので、会場には日本人の姿も見られました。参加者らは、日本の楽器や歌の説明に興味深そうに聞き、庁舎に響き渡る心地よい音色と歌声に耳を澄ましていました。



1\_ 市役所内に心地よい音色が響きました 2\_ 演奏を披露したエルサー明子さん(左)とラキユア真萩さん

★お知らせ  
 活動の様子は、遠野テレビや(一財)遠野市教育文化振興財団のフェイスブックでも公開しています。ぜひご覧ください。

財団のフェイスブック  
 FB 遠野市教育文化振興財団

